

石綿綿飛散漏洩防止対策徹底マニュアル 新旧対照表 [2.11 版←2.10 版]

(下線部が訂正部分。ただし、p. 153 (旧 p. 152) はマニュアルに記載された下線と区別・判別できるよう枠囲みで訂正部分を示している。)

2.11 版			2.10 版																										
委員名簿			委員名簿																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">氏名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(略)</td> <td>(略)</td> <td>(略)</td> </tr> <tr> <td><u>臨時委員</u></td> <td><u>若林 正信</u></td> <td><u>一般社団法人 エレベータ協会</u></td> </tr> <tr> <td>(略)</td> <td>(略)</td> <td>(略)</td> </tr> </tbody> </table>			氏名		所属	(略)	(略)	(略)	<u>臨時委員</u>	<u>若林 正信</u>	<u>一般社団法人 エレベータ協会</u>	(略)	(略)	(略)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">氏名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(略)</td> <td>(略)</td> <td>(略)</td> </tr> <tr> <td>(追加)</td> <td>(追加)</td> <td>(追加)</td> </tr> <tr> <td>(略)</td> <td>(略)</td> <td>(略)</td> </tr> </tbody> </table>			氏名		所属	(略)	(略)	(略)	(追加)	(追加)	(追加)	(略)	(略)	(略)
氏名		所属																											
(略)	(略)	(略)																											
<u>臨時委員</u>	<u>若林 正信</u>	<u>一般社団法人 エレベータ協会</u>																											
(略)	(略)	(略)																											
氏名		所属																											
(略)	(略)	(略)																											
(追加)	(追加)	(追加)																											
(略)	(略)	(略)																											
p. 3			p. 3																										
関係通達・参考図書 ●石綿障害予防規則の施行について(平成 17 年 <u>3</u> 月 18 日 基発 0318003 号)			関係通達・参考図書 ●石綿障害予防規則の施行について(平成 17 年 <u>2</u> 月 18 日 基発 0318003 号)																										
p. 7			p. 7																										
なお、解体・改修等の事前調査以外にも、様々な調査がある（石綿指針 <u>2-1-2</u> の〈事前調査の具体的手順の例〉の <u>2</u> (2)、石綿指針 3 の具体的留意事項 <u>4</u> を参照）。円滑な実施のため、発注先に対して、調査の目的や、調査の規模が明らかになる図面等を提示することが肝要である。			なお、解体・改修等の事前調査以外にも、様々な調査がある（石綿指針 <u>2-2-1</u> の〈事前調査の具体的手順の例〉の (2)、石綿指針 3 の具体的留意事項 <u>6</u> を参照）。円滑な実施のため、発注先に対して、調査の目的や、調査の規模が明らかになる図面等を提示することが肝要である。																										
p. 10			p. 10																										

表 1.2 レベル分類別の、おおよその石綿則の適用一覧表

レベル 1		レベル 2	
石綿含有吹き付け材		保温材、耐火被覆材、断熱材	
封込、囲込 (切断等あり)	囲込 (切断等なし)	封込、囲込 (切断等あり)	囲込 (切断等なし)

- 1) 保温材、耐火被覆材、断熱材のうち、著しい粉じん発散のおそれがある場合が対象であり、具体的には表 1.1 のものが対象。著しい粉じん発散のおそれがない場合は、レベル 3 の適用となる。
- 2) 呼吸用保護具の選択については、石綿指針 2-5-1 の項および付録 IX を参照のこと。

p. 11

●アスベスト分析マニュアル [1.11 版] (厚生労働省、平成 29 年 6 月)

p. 14

16. (中略) また、成形板のように現物に石綿の有無に関する情報が記載されているものがある (詳細は付録 II 参照)。

p. 17

25. (中略) その際の措置として、付録 XI を参考にすることができる。

p. 17

26. (中略) 事前調査の結果報告書の (一社) JATI 協会書式を例として付録 IV に提示する (表紙、詳細表 ※ワークシートは報告用ではなく作業用)。

p. 36, 40, 43, 46, 49, 54, 62, 77, 94, 100

●建築物の解体等に係る石綿飛散防止対策マニュアル 2014.6 (環境省水・大気環境局大気環境課、平成 26 年 6 月)

p. 68~70

表 1.2 レベル分類別の、おおよその石綿則の適用一覧表

レベル 1		レベル 2	
石綿含有吹き付け材		保温材、耐火被覆材、断熱材	
封込、囲込 (切断等あり)	<u>封込、囲込</u> (切断等なし)	封込、囲込 (切断等あり)	<u>封込、囲込</u> (切断等あり)

- 1) 保温材、耐火被覆材、断熱材のうち、著しい粉じん発散のおそれがある場合が対象。粉じん発散のおそれがない場合は、レベル 3 の適用となる。
- 2) 呼吸用保護具の選択については、付録 IX を参照のこと。

p. 11

●アスベスト分析マニュアル [1.10 版] (厚生労働省、平成 29 年 3 月)

p. 14

16. (中略) また、成形板のように現物に石綿の有無に関する情報が記載されているものがある。

p. 17

25. (中略) その際の措置として、付録 X を参考にすることができる。

p. 17

26. (中略) 事前調査の結果報告書の JATI 協会書式を例として付録 IV に提示する (表紙、ワークシート、詳細表)。

p. 36, 40, 43, 46, 49, 54, 62, 76, 93, 99

●建築物の解体等に係る石綿飛散防止対策マニュアル 2014 (環境省水・大気環境局大気環境課、平成 26 年 6 月)

p. 68~69

≪ (1) 非破碎の原則 ≫

1. (略)

≪ (2) 湿潤化の方法 ≫

2～4. (略)

≪ 各建材への対応例 ≫

5. (略)

6. 住宅屋根用化粧スレートの除去作業について、屋根材を取り外すには釘を抜く必要があるが、その際に屋根材の釘抜き箇所から石綿が飛散し、作業者の呼吸部位に達する。そのため、石綿則や石綿指針に基づき適切な呼吸用保護具の着用が必要である。

また、湿潤化の措置については、屋根材が重層して葺き上げられているため留付釘部に水がほとんど浸透せず、また、湿潤化すると屋根材上は滑り易くなって墜落の危険が増大するため、一般的には湿潤化が著しく困難である。このため、湿潤化に代わる石綿発散防止措置として、屋根材の部分破碎防止のため圧力が集中しないような釘抜きを用いて、石綿を吸引しながら釘引抜きを行うことが望ましい。

ただし、そうした釘抜き時の吸引については、

- ・吸引機器が、釘が刺さる等により破壊されない構造であること、整備時に機器を開放する際に石綿飛散防止措置を講じられる構造であること
- ・作業者が、当該吸引機器を適切に取り扱えるよう十分な知識を有すること

等が必要である。

なお、屋根上作業は、手すりの設置又は安全帯の使用等の必要な墜落防

1. (略)

2～4. (略)

5. (略)

<p><u>止措置を講じる。</u></p> <p>≪(3)養生≫</p> <p><u>7.</u> (略)</p> <p>≪その他≫</p> <p><u>8.</u> (略)</p>	<p><u>6.</u> (略)</p> <p><u>7.</u> (略)</p>
p. 86	p. 85
②については、(中略)、 <u>環境省の「アスベストモニタリングマニュアル」(4.1版)</u> 等を参照されたい。	②については、(中略)、 <u>アスベストモニタリングマニュアル(4.0版、平成22年6月)</u> 等を参照されたい。
p. 86	p. 85
② 測定箇所 <u>「アスベストモニタリングマニュアル」</u> に定めた方法により実施する。 <u>「アスベストモニタリングマニュアル」</u> では、(以下略)	② 測定箇所 <u>環境省アスベストモニタリングマニュアル(第4.0版)</u> (以下「 <u>モニタリングマニュアル</u> 」という。)に定めた方法により実施する。 <u>モニタリングマニュアル</u> では、(以下略)
p. 87	p. 86
⑤ 分析方法 (中略)、 <u>「アスベストモニタリングマニュアル」</u> に掲載されている解体現場等における迅速な測定法(位相差/偏光顕微鏡法、蛍光顕微鏡法)の使用も考えられる。	⑤ 分析方法 (中略)、 <u>モニタリングマニュアル</u> に掲載されている解体現場等における迅速な測定法(位相差/偏光顕微鏡法、蛍光顕微鏡法)の使用も考えられる。
p. 88	p. 87
・ <u>環境省のアスベストモニタリングマニュアル</u> ・・・・・・・・・・ <u>総繊維数濃度</u>	・ <u>環境省アスベストモニタリングマニュアル</u> ・・・・・・・・・・ <u>総繊維数濃度</u>
p. 88(表-5)	p. 87(表-5)
アスベストモニタリングマニュアル	アスベストモニタリングマニュアル <u>[第4.0版]</u>
p. 91	p. 90

<p>環境省の「<u>アスベストモニタリングマニュアル（第4.1版）</u>」には、A-SEM法の前処理方法は3種類が提示されているが、低温灰化処理装置を保有していない場合には、メンブランフィルタと並行でポリカーボネートフィルタを用いてサンプリングすると前処理も容易で像も見やすい。</p>	<p>環境省の『<u>アスベストモニタリングマニュアル〔第4.0版〕</u>』には、A-SEM法の前処理方法は3種類が提示されているが、低温灰化処理装置を保有していない場合には、メンブランフィルタと並行でポリカーボネートフィルタを用いてサンプリングすると前処理も容易で像も見やすい。</p>
p. 92	p. 90
<p>●<u>アスベストモニタリングマニュアル（第4.1版）</u>（環境省水・大気環境局大気環境課、平成29年7月）</p>	<p>●<u>アスベストモニタリングマニュアル〔第4.0版〕</u>（環境省水・大気環境局大気環境課、平成22年6月）</p>
p. 96	p. 95
<p>●<u>石綿含有廃棄物等処理マニュアル（第2版）</u>（環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部、平成23年3月）</p>	<p>●<u>石綿含有廃棄物等処理マニュアル〔第2版〕</u>（環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部、平成23年3月）</p>
p. 126	p. 125
<p>（画像を差し替え） ※赤矢印の表示を省略</p>	<p>（画像を差し替え） ※赤矢印が途中で切れていた。</p>
p. 129	p. 128
<p>（画像を差し替え） ※看板縦方向の赤矢印も表示</p>	<p>（画像を差し替え） ※看板横方向の赤矢印のみ表示</p>
p. 153	p. 152
<p>（3）建築用仕上塗材の改修工事や除去工事では、仕上塗材の種類、仕上塗材層の劣化程度、仕上塗材層の処理の程度、仕上塗材層の除去効率、粉じんの発生程度、作業場の隔離養生の要否、廃水処理の要否、施工費等の諸条件を考慮して、①～⑮の処理工法中から適切なものが選定される。これらの処理工法の中で、「Ⅱ」の石綿則第6条ただし書きにより粉じん飛散防止に関し隔離措置と同等の措置と判断できる工法は、下線を施した③、⑤、⑦、⑨、⑩、⑪、⑫、⑬、⑮である。また、隔離措置と同等の措置と判断できる新しい処理工法が今後開発される可能性もある。</p> <p>③ <u>集じん装置併用手工具ケレン工法</u></p> <p>⑨ <u>超音波ケレン工法（HEPA フィルター付き掃除機併用）</u></p>	<p>（3）建築用仕上塗材の改修工事や除去工事では、仕上塗材の種類、仕上塗材層の劣化程度、仕上塗材層の処理の程度、仕上塗材層の除去効率、粉じんの発生程度、作業場の隔離養生の要否、廃水処理の要否、施工費等の諸条件を考慮して、①～⑭の処理工法中から適切なものが選定される。これらの処理工法の中で、「Ⅱ」の石綿則第6条ただし書きにより粉じん飛散防止に関し隔離措置と同等の措置と判断できる工法は、下線を施した⑤、⑦、⑨、⑩、⑪、⑫、⑬、⑮である。また、隔離措置と同等の措置と判断できる新しい処理工法が今後開発される可能性もある。</p> <p>③ <u>集じん装置併用手工具ケレン工法</u></p> <p>⑨ <u>超音波ケレン工法（HEPA フィルター付き掃除機併用含む）</u></p>
p. 159	p. 158

1.0 版 H25.3 平成 24 年度「石綿除去作業における石綿漏洩防止徹底のため
の調査研究検討委員会」により検討・作成。

(中略)

2.11 版 H29.11.20 平成 28 年度「「建築物等の解体等の作業及び労働者が
石綿等にはく露するおそれがある建築物等における業務での労働者の石綿
ばく露防止に関する技術上の指針」に基づく石綿飛散漏洩防止対策徹底マ
ニュアル」改訂に係る検討会を踏まえた改訂のほか、誤字訂正など所要の
修正。

1.01 版 H25.3 平成 24 年度「石綿条拳作業における石綿漏洩防止徹底のため
の調査研究検討委員会」により検討・作成。

(以下略)